



# 神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民サポートセンター 11階  
Fax：045-324-1120 E-mail:jimuk.ksvn@gmail.com



## 第11回定期総会を終えて 理事長就任のご挨拶

NPO法人  
神奈川災害ボランティアネットワーク  
理事長 河西 英彦

コロナ禍での第11回総会、会場参加とWebサイトでの参加を頂き開催されました。

年度初めの多忙な中、またお足元の悪い中、神奈川県くらし安全防災局危機管理課課長 能戸一憲氏、神奈川県くらし安全防災局危機管理課応急対策グループグループリーダー 上平義樹氏、かながわ県民活動サポートセンター所長 寺岡譲氏、神奈川県共同募金会事務局長 中島孝夫氏、神奈川県社会福祉協議会課長 大関晃一氏をご来賓にご来籠頂き、力強いお言葉を頂きました。

平素の活動へのご理解とご協力に重ねて御礼申し上げます。本年度もよろしくお願ひ致します。議題審議にあたり資料の事前確認を頂いたため、スムーズに各議題審議が行われました。本年度は役員改選期に当たり、役員承認の後、臨時理事会において理事長の立候補者・推薦者の中から選考を互選（挙手）により選任いたしました。

多くのご賛同を頂き再度、私河西が理事長職を担うこととなり、その重責に身の引き締まる思いです。先を見据えた副理事長の選任をさせて頂きました。合わせて事務局長・事務局員会計担当を推薦させて頂き総会議事録の通り総会です承されました。

法人化10周年の企画は、変遷する災害ボランティアの転換の好機と捉え、計画を進めています。10周年記念誌には黒岩県知事様はじめ、会員団体の行政・社協から又関係の深い各氏から挨拶の原稿を頂戴し発行することが出来ました。関係各位にはあつく御礼申し上げます。県内全ての行政と社会福祉協議会および関係機関に送付し、ご査収いただきました。

オンライン活用、ICT活用は業務改革に欠かせないツールとなった。又ボランティアセンターの運営にも活用が進み習得・学習が喫緊の課題となっています。

災害発生時の地域の体制強化は減災の要です、市区町村での行政・社協・災ボラの三者協定（連携）がさらに充実の必要に迫られています。地域災ボラの支援を惜まず構築する手助けをしていきたいと思ひます。内閣府もようやくボランティアセンターの人材等への災害救助法による国庫負担を決定施行されました。共同募金会のセンター運営資金に加えてセンター要員の確保に役立ちます。しかし組織の明確化が必要です、そうした面からも地域の三者連携がますます重要視されます。自助・共助に公助がセンターに手を差し伸べることになりました。本年度は組織の強化を支援していきたいと思ひます。そのうえで神奈川県方式の災害支援連携会議（仮称）の構築を進め、大災害に備えてまいります。地域の連携強化とICT化を活用した業務改革そして神奈川ワンチームの形成に向け、着実に進めるうえで10周年記念活動を実りあるものにしていきましょう。

皆様のご健勝をお祈りするとともに、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

# 第43回九都県市合同総合防災訓練に参加



大勢の家族連れで賑わう横浜市総合防災訓練会場の展示ブース



ビッグレスキューかながわ葉山会場、中高層建物からの救出救助・消火活動訓練

2年間延期又は関係機関のみの参加となっていた九都県市合同防災訓練が今年度は一般参加者を交えて開催され、ボランティア団体、企業等が展示・体験のブースを設け来場した参加者との交流が行われました。KSVネットでは8月21日横浜市会場、10月16日葉山会場に参加しブース設置、災害救援ボランティアセンター設置運営訓練、情報連絡訓練に参加しました。両日にブースの運営、資機材運搬、訓練に参加された皆様はお疲れさまでした。

## 8月21日(日) 横浜市総合防災訓練

九都県市合同防災訓練横浜会場では令和4年度横浜市総合防災訓練として横浜市金沢区富岡中学校で実動訓練、並木十二天公園で展示・体験エリアが実施されました。

ブースではKSVネットの紹介として会のあゆみ年表・活動写真の展示、Webフォームを利用して災害救援



スタッフの皆さん

ボランティアセンターの活動応募を来場者に体験してもらいました。

ブース内にPC・Wi-Fiルーター・プロジェクター・スクリーンを用意し、電源としてポータブル電源・太陽光パネル・ガス式発電機を使用しました。体験参加者はスマホ、タブレットを使ってボランティア活動応募を行いその結果をスクリーンで見てもらい、

応募に応じたニーズとのマッチング、応募者への連絡等ICTを使ったボランティアセンターの運営の紹介を行いました。



山中市長と挨拶を交わす



訓練参加の感想を述べる参加者



スマホで応募を体験



一斉消火訓練



救助救出訓練

## 10月15日(日) ビッグレスキュー葉山会場



中高層建物からの救助救出訓練

九都県市合同防災訓練葉山会場ではビッグレスキューかながわ(令和4年度神奈川県・葉山町合同防災訓練)として葉山町南郷上ノ山公園を中央会場として実施されました。

展示・体験コーナーのブースでは横浜会場と同様の資機材(電源を除く)を用意し、会の活動紹介とDIT Sによる情報発信体験、ボランティアセンター応募体験を来場者に紹介、体験してもらいその結果を見てもらいました。

コロナ禍で起こった自然災害でのボランティアセンターで見られた工夫された運営手法の紹介と体験をしてもらいました。

ボランティアセンター設置訓練には被災者役、活動者役として参加し事前登録、障がい者への対応等貴重な体験が出来今後の活動に生かしたいと感じまし



県サポ支援センターの訓練

た。情報伝達訓練では会場と県サポ支援センターとの間で被害情報、支援情報のやり取りをWebフォーム、Zoomによるオンライン会議、アマチュア無線等多様な情報伝達手段を使って行いその有効性の確認ができました。



車からの救助救出訓練



葉山災ボラでの受付



スタッフの皆さんご苦労さまです

# 「災害ボランティアコーディネーター基礎講座」今年度も開催

今年度は、8月6、20、27日の3日間にわたり、コミュニティカレッジ講座として開催され、19人の個人・団体からの申し込みを受けて実施されました。

1日目は、吉井博明先生の県地域防災計画など地域の防災・減災の全体像と、講座に寄せるグループワークを、2日目は、松山文紀先生によるグループディスカッション、3日目は、ピースポート関根氏による、各時間フレーズに沿ったカードを使用したグループディスカッションを実施しました。総じて、グループ毎に熱心な議論がかわされました。

今年は、個人だけでなく、団体での申し込みもあり、県内でも2019年秋の川崎市や相模原市での災害ボランティアセンター設置や、この間毎年のごとく各地を襲う台風、豪雨被害の多さを受けての影響があるのでしょうか。

講座は、毎年県や市町村の防災訓練の直前を意識



して設定していたのですが、県は10月中旬まで延び、またこの3年間、コロナ禍でもあったことから、多くの方が集まれない制約もありました。しかし、来年は関東大震災から100年。9月1日、および県防災ビッグレスキューは真剣に取り組まれることになるでしょう。

## 令和4年度 足柄上地区社会福祉協議会連絡会主催 災害ボランティアセンター担当職員研修会・県西地域学習会に参加

開催日時：令和4年11月25日 13:30～15:00  
開催会場：松田町生涯学習センター 展示ホール

足柄上地区・西湘地区の2市8町の社会福祉協議会は災害時の災害ボランティアセンターに関する相互の人的支援や資材提供を目的に相互協定を結んでいます。その協定の一巻として職員の研修、学習会を開催しました。KSVネットはオブザーバーとして参加し、意見交換を行いました。

第一部の講演会では「小規模社協の災害ボランティアセンター運営への関係機関の支援について」県サポートセンター 池上課長と「NPO等と連携した長期的な被災者支援について」をみんかな共同代表

手塚明美氏、お二人の講演がありました。

第二部では今後の連携について意見交換（グループワーク）が8人×6組に分かれて行われました。グループ発表では社会福祉協議会としての課題に対して次の様な意見交換をいたしました。

### ○どの町も社協主体でボラセンの開設は小人数の職員の為厳しい

△先ずは県西 地区の社協が連携支援する・その後県社協に、県社協では他地域からの社協職員の応援要請をする・県災ボラからも応援の可能性が有ります、連絡してください。

### ○高齢化が進んだ地区が多く避難できない人が多数出るであろう、地域内の見守りが必要になる（外部支援も必要）

△地域内だけでは人員が不足の場合は県社協・県災ボラに人員要請して下さい

まだVCの開設訓練をしていない、早期に行うことを勧める、またその時はKSVネットがお手伝いしますと伝えました。



### お知らせ

- 震災対策技術展  
令和5年2月2日・3日  
会場：パシフィコ横浜
- 法人化10周年記念式典  
令和5年2月中旬か下旬
- 関東大震災100年記念行事  
第8回防災推進国民大会  
令和5年9月17日・18日  
会場：横浜国立大学

### 編集後記

### 継続は力なり

コロナ禍では様々なイベントが中止になり、自粛に慣れ切ってしまった。何もしない月日が続いて来たが、今年になりようやく様々なイベントが開催されるようになってきた。つい先日も3年振りに地域の防災訓練を再開したが、大変な苦勞をさせられた。まずこの3年間の間に経験者がいなくなり、記憶も定かではなく、ゼロからの出発となってしまった。特に防災訓練には関連団体が多く、依頼先を掘り起こす事から始めなければならず、簡単でも良いからやっておく大切さを痛感させられた防災訓練でした。継続の大切さ、まさに継続は力なりですね。

(広報委員：大田哲夫・桜井展子・田口謙吉・石田昌美・丸山善弘)



※この広報誌は共同募金年末助け合い配分金で発行しています